

共同生活援助

基本報酬の見直し

- ・ 日中サービス支援型

サービス創設の趣旨や手厚い人員体制の有効活用の観点から、
現行報酬より重度者と中軽度者の報酬の差を拡大

【現行】

区分 6	1,	1 0 4 単位
区分 5		9 8 8 単位
区分 4		9 0 6 単位
区分 3		7 2 1 単位



【改正後】

区分 6	<u>1,</u>	<u>1 0 5 単位</u>
区分 5		<u>9 8 9 単位</u>
区分 4		<u>9 0 7 単位</u>
区分 3		<u>6 5 0 単位</u>

- ・ 介護サービス包括型及び外部サービス利用型

重度障害者に配慮しつつ、経営の実態等を踏まえて見直し

重度障害者支援加算の見直し

- ・ 重度障害者支援加算について、重度障害者の受入れ体制を整備するために、障害支援区分4以上の強度行動障害を有する者を対象とした区分を新設

【現行】

重度障害者支援加算 360単位



【改正後】

重度障害者支援加算（Ⅰ） 360単位

重度障害者支援加算（Ⅱ） 180単位

※介護サービス包括型、日中サービス支援型のみ

夜間支援等体制加算の見直し①

- ・ 現行では支援対象の人数が8人以上の場合は、複数人ごとに加算単位を設定していたが、支援対象者の人数が1人増えるごとに、加算の単位数を設定
- ・ 夜間支援体制加算（Ⅰ）について、入居者の障害支援区分に応じて加算の単位数を設定

【例】夜間支援体制加算（Ⅰ）の場合

【現行】

夜間支援対象者	単位
8人以上 10人以下	149



【見直し後】

夜間支援対象者	障害支援区分	単位
8人	<u>区分4以上</u>	<u>168</u>
	<u>区分3</u>	<u>140</u>
	<u>区分2以下</u>	<u>112</u>
9人	<u>区分4以上</u>	<u>149</u>
	<u>区分3</u>	<u>124</u>
	<u>区分2以下</u>	<u>99</u>
10人	<u>区分4以上</u>	<u>135</u>
	<u>区分3</u>	<u>113</u>
	<u>区分2以下</u>	<u>90</u>

夜間支援等体制加算の見直し②

- ・ 夜間支援等体制加算（Ⅰ）を算定している事業所において、事業所単位で夜勤又は宿直の職員を追加配置した場合の加算区分を新設

加算区分	算定要件
夜間支援等体制加算（Ⅳ）	夜勤職員を追加配置
夜間支援等体制加算（Ⅴ）	夜勤職員（夜間の一部時間）を追加配置
夜間支援等体制加算（Ⅵ）	宿直職員を追加配置

医療的ケアが必要な利用者への支援の評価

○医療的ケア対応支援加算【新設】 120単位／日

基準に定める員数の従業者に加え、看護職員を常勤換算方法で1以上配置している事業所において、医療的ケアが必要な者に対して支援を行った場合に加算する。

※重度障害者支援加算（Ⅰ）または医療連携体制加算が算定される場合は算定しない。

強度行動障害者受入れを促進するための体験利用の評価 (介護サービス包括型、日中サービス支援型)

○強度行動障害者体験利用加算【新設】 400単位／日

強度行動障害を有する者が地域移行のためにグループホームにおいて体験利用を行う場合に、強度行動障害支援者養成研修又は行動援護従業者養成研修の修了者を配置している事業所について、報酬上の評価を行う加算を創設

※重度障害者支援加算が算定される場合は算定しない

個人単位で居宅介護等を利用する場合の経過措置の延長

- ・令和3年3月31日までとなっている重度障害者に係る利用者ごとの個人単位での居宅介護等の利用について、重度障害者の受入体制を確保する観点から、経過措置を令和6年3月31日まで延長する。

施設入所支援

口腔衛生管理の充実①

○口腔衛生管理体制加算【新設】 30単位／月

歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、施設従業者に対する口腔ケアに係る技術的助言及び指導を月1回以上行っている場合に加算する。

「口腔ケアに係る技術的助言及び指導」について

入所者の口腔内状態の評価方法、適切な口腔ケアの手技、口腔ケアに必要な物品整理の留意点、口腔ケアに伴うリスク管理、その他当該施設において日常的な口腔ケアの実施に当たり必要と思われる事項のうち、いずれかに係る技術的助言及び指導のことをいうもの。

口腔衛生管理の充実②

○口腔衛生管理加算【新設】 90単位／月

口腔衛生管理体制加算を算定している施設において、歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が、入所者に対して口腔ケアを実施し、当該入所者に係る口腔ケアについて従業者へ具体的な技術的助言及び指導をした場合において、当該入所者ごとに算定するものである。

【算定要件】

次のイ～ロをいずれも満たしている場合について加算する。

イ 歯科衛生士が口腔ケアを月2回以上行うこと。

ロ 歯科衛生士が施設従業者に対して口腔ケアに関する助言及び指導を行うこと。

ハ 歯科衛生士が必要に応じ、施設従業者からの相談等に対応すること。

摂食・嚥下機能の充実③

○経口移行加算の要件の見直し

栄養マネジメント加算を算定していない場合は対象外とする。

○経口維持加算の見直し

栄養マネジメント加算を算定していない場合は対象外とし、加算要件の一部を見直す。

- ・ 経口維持加算（Ⅰ） 400単位／月

摂食障害を有し、誤嚥が認められる入所者の経口維持計画を作成し、管理栄養士等による特別な管理を行った場合に加算

- ・ 経口維持加算（Ⅱ） 100単位／月

経口維持加算（Ⅰ）を算定している場合に、支援会議等に医師等が出席した場合に加算

摂食・嚥下機能の充実④

○療養食加算の要件の見直し

【現行】

- ・ 栄養士が配置されている施設において、療養食を提供した場合に加算
- ・ 経口移行加算又は経口維持加算を算定している場合は算定しない



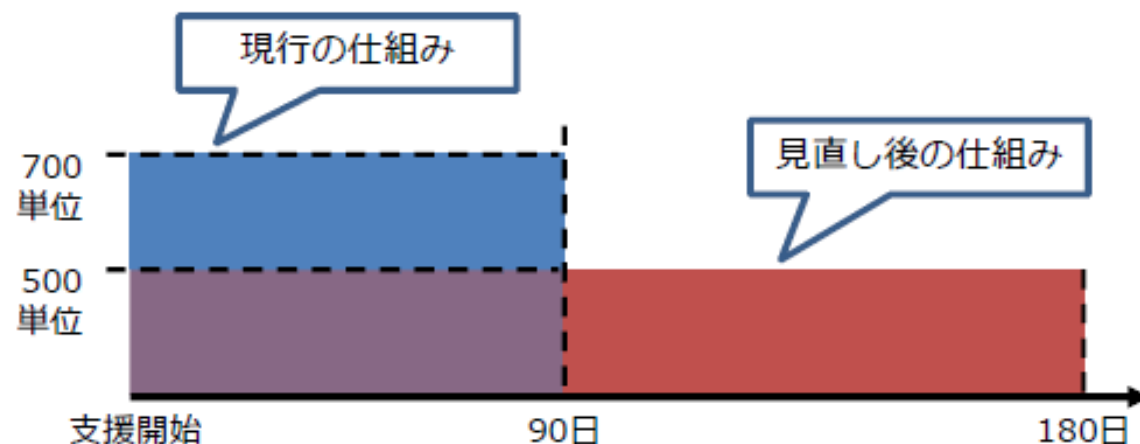
【見直し後】

- ・ 管理栄養士又は栄養士が配置されている施設において、療養食を提供した場合に加算
- ・ 経口移行加算又は経口維持加算を算定している場合も算定対象とする。

重度障害者支援加算の見直し

・ 重度障害者支援加算（Ⅱ）については、加算の算定を開始した日から90日以内の期間について、さらに700単位を加算できることとしていたが、利用者の状態確認や利用者が環境の変化に適応するためのアセスメント期間を一定程度見直し、加算算定期間及び単位数を見直す。

	現行	見直し後
算定期間	90日	<u>180日</u>
単位数	700単位	<u>500単位</u>



短期入所

基本報酬の見直し（医療型短期入所）

- ・ 医療型短期入所事業所の整備促進を図る観点から、経営実態も踏まえつつ、基本報酬を引き上げる。

【例】

- ・ 医療型短期入所サービス費（Ⅰ）
（現行）2,907単位／日→（改正後）3,010単位／日
- ・ 医療型特定短期入所サービス費（Ⅰ）
（現行）2,785単位／日→（改定後）2,835単位／日

対象者要件の見直し（医療型短期入所）

以下に該当する者を対象者に追加する。

- ・ 障害支援区分 5 以上に該当し、強度行動障害があり医療的ケアを必要とする者
- ・ 医療的ケア児判定スコアが 16 点以上の障害児

以下に該当する者は、より高い報酬区分の算定を可能とする。

- ・ 障害支援区分 5 以上に該当し、遷延性意識障害があり医療的ケアを必要とする者

特別重度支援加算の算定要件と単位数の見直し (医療型短期入所)

- ・医療型短期入所の対象者見直しに伴い、いわゆる「動ける医ケア児」に対する支援を実施した場合にも特別重度支援加算を算定できるよう、算定要件から「運動機能が座位まで」を削除
- ・利用者が必要とする医療的ケアの判定スコアの合算点数に応じて、単位数を設定

加算区分	現行	改正後
特別重度支援加算（Ⅰ）	・ 判定スコア 10 点以上 （運動機能が座位まで） 【610 単位／日】	・ <u>判定スコア 25 点以上</u> <u>【610 単位／日】</u>
特別重度支援加算（Ⅱ）	・ 上記以外の医療ニーズ が高い障害児・者 【120 単位／日】	・ <u>判定スコア 10 点以上</u> <u>【297 単位／日】</u>
特別重度支援加算（Ⅲ）	【新設】	・ <u>上記以外の医療ニーズが高</u> <u>い障害児・者</u> <u>【120 単位】</u>

医療型短期入所における日中活動支援の充実

○日中活動支援加算【新設】 200単位／日

医療型短期入所について、相談支援専門員が作成するサービス等利用計画又は障害児支援利用計画において、医療型短期入所事業所での日中活動支援が必要とされている場合であって、発達支援、成長支援の知識・経験を有する保育士やリハビリテーションを行う専門職を配置した上で、当該専門職が日中活動に係る支援計画を作成し、日中活動支援を実施していることを評価するための加算を創設

緊急時のための受入れ機能の強化

○地域生活支援拠点等である場合の加算【新設】

市町村により地域生活支援拠点等として位置付けられている指定短期入所事業所又は共生型短期入所事業所の場合、利用開始日について、本体報酬に100単位を加算するものとする。

（緊急時の受入に限らず算定）